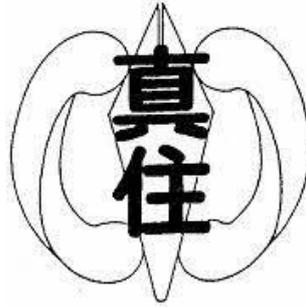


令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」



大阪市立真住中学校

令和8年2月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校における長年の課題であった学校内外での生徒の問題行動も比較的安定しつつあり、生徒たちの規範意識や生活習慣も徐々に確立されつつある。保護者をはじめ、地域・関係諸機関からの教育活動への参画と、教職員の日々の教育実践の成果である。

しかしながら、依然として各種学力調査においては正答率や平均点が全国平均、大阪府・大阪市平均を下回っている状況が続いている。落ち着いて授業を受けるなど「学習へ向かう姿勢」は確立しつつあるものの「学力の定着」という点においての課題は解消していない。

学力調査における無回答率の高さを解消するために目の前の課題に対して、あきらめることなく、最後まで粘り強く取り組む姿勢を醸成していくことを目標に掲げ、日々の教育実践を展開していくことが今後に向けた課題である。

また、「安全・安心な教育の推進」の実現に向けての課題として、学校アンケートにおいて「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と答える生徒の割合が89%であり、不登校生徒の割合も13.3%に達する現状がある。

学力面において全国平均、対府・市平均を下回っているものの、体力調査においては学年、男女別によっては一部で平均を上回っている。そして、地域の防災活動に貢献するなど、自分たちの長所を人のために役立てる活動を通して、自己肯定感を感じさせることが出来るよう日々の教育実践を行う。

豊かな感性を育むとともに、生徒一人ひとりが安心して穏やかな気持ちで、学校生活を過ごすことのできる集団づくりに取り組む。関係機関とのより密接な連携のもとに不登校や虐待事案、ヤングケアラーに関わる問題はもとより、生起するさまざまな教育課題にも組織的な取組みを進める。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を、85%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、75%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を、毎年、増加させる。
- ・令和7年度の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、96%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、68%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を93%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、65%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の中学校チャレンジテストの府平均正答率(平均点)7割以下の生徒を、いずれの学年も令和3年度より5ポイント減少させる。(令和3年度：1年34%,2年28%,3年38%)
- ・令和7年度の校内調査の「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を、40%以上にする。
- ・令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、40%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査の「T.T.や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を57%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。
- ・令和7年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を、100%にする。
- ・令和7年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。
- ・令和7年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、令和3年度より5ポイント減少させる。
- ・令和7年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 1 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合88.8%以上にする。
(R6 88.7%)
- 2 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
(R6 13.3%)
- 3 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
(R6 64.2%)
前年度不登校であった生徒のうち不登校の状態が解消され、不登校状態であっても、出席日数の増(校内外でのICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む)など、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握する。
- 4 年度末の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、97%以上にする。(R6 96.6%)
- 5 年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、79%以上にする。(R6 78%)
- 6 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、73%以上にする。(R6 72%)
- 7 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、94%以上にする。(R6 93%)
- 8 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。(R6 69%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 1 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする。(R6 42%)
- 2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。
(令和6年度：2年国語0.91数学0.86、1年国0.93数0.96)
- 3 令和7年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)7割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
(令和6年度：1年26% 2年36%)
- 4 年度末の校内調査の「T.T.や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。(令和6年度:91%)
- 5 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を51%以上にする。(R5 50.7%)
- 6 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を58%以上にする。
(R6 57%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 1 ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は、4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては、2日以上設定する。
- 2 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く)
- 3 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)を満たす教員の割合を前年度以上にする。【令和6年度33.3%(76.7%)】
- 4 学校閉庁日については、夏季休業期間中は2日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。(R6春0夏3冬3)
- 5 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。(R6 79%)
- 6 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。(R6 79%)
- 7 令和7年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、前年度より3ポイント減少させる。(令和6年度:校内52.0%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標(小・中学校)

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は88.1%で、年度目標88.8%より0.7ポイント下回った。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を減少させるは11.3%で、前年度13.3%より2ポイント減少した。

○年度末の校内調査において、前年度より不登校生徒の改善の割合は54.0%で、前年度64.2%より14.2ポイント改善する割合が低下した。

学校の年度目標

○令和7年度の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について肯定的に回答する割合は80%で、年度目標の79%より1ポイント増加した。

○令和7年度の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は64%で、年度目標70%より6ポイント低下した。

○令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は73%で、年度目標73%と同等であった。

●いじめに対しては、各学期に実施する「いじめアンケート」や教育相談活動等を通して、早期発見・早期対応に努めており、「いじめ・いのちについて考える日」に学校長が講話を行っている。今年度は「いじめ・いのちについて考える日」に先立って生徒指導主事が講師となっていじめに対する正しい理解と対応に向けた校内研修会を実施した。「大阪市いじめ対策基本方針」の徹底を図るとともに、今後あらゆる教育活動を通じて、

自他を尊重し、正義と公正さを重んじる感性を養い、「いじめを許さない」という態度を育成する。また、12月には自殺予防教育として外部講師を招聘し、講演・アンケート・個別面談がパッケージとなる取組を行い、いのち大切さについて考える取組を実施した。

●不登校生徒に対する取組は担任や学年だけで抱えることなく、アシストルームの活用に向けて室内の整備・人的配置の見直しを行った。スクールカウンセラー、区役所子育て支援室、こども相談センター、教育支援センター等関係機関との連携を強化しており、個に応じた対応を行った。

●不登校生徒に対する取組は担任や学年だけで抱えることなく、アシストルームの活用、スクールカウンセラー、区役所、こども相談センター、教育支援センター等関係機関との連携を強化しており、個に応じた対応を行っていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合は35%で、年度目標の45%を10ポイント下回った。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、3年生は前年度より国語で1.6ポイント低下、数学では前年度より4.1ポイント向上し、数学は大きく向上したが、国語は年度目標の0.05ポイント向上には至らなかった。（1・2年生チャレンジテストの結果は現時点で未公表）

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は45.3%で、年度目標51%より5.7ポイント下回った。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕が11月末時点で0日であった。

○「学校閉庁日」は夏季休業期間中に5日、冬季休業期間中には1日設定し、年度目標の夏季休業期間中2日以上、夏季休業期間以外の休業期間1日を達成した。

学校園の年度目標

○令和7年度の全国学力学習状況調査の「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）」に対して肯定的に答えない生徒の割合は校内調査で59%となり、前年度より7ポイント増加し、年度目標3ポイント減少させるは達成出来なかった。（全国学力学習状況調査は67.4%）た）

●「学習者用端末年間活用率」では日別活用率0%の日は1日もなく、年間を通して年間活用率100%を継続している。一人一台学習者用端末の整備により、日々の学校生活における何らかの場面において、ICT機器が利用できているという状態にはある。

●働き方改革の推進については、1月末現在で月80時間以上の長時間勤務者がいる月は、8/10か月（8月・12月以外）で、引き続き長時間勤務の縮減が喫緊の課題である。

●学校司書や元気アップコーディネーターの協力もあり、放課後の図書館開館や月に2回土曜日の開館を行っている。今後も本に親しむ環境整備と読書習慣の形成をめざす。

大阪市立真住中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>1 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 88.8%以上にする。(R6 88.7%) 取組① 88.1% 未達成</p> <p>2 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 13.3%) 取組② ③ 11.3% 達成</p> <p>3 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。(R6 64.2%) 取組② ③ 54.0% 未達成</p> <p>4 年度末の校内調査の「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、97%以上にする。(R6 96.6%) 取組④ 93.3% 未達成</p> <p>5 年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、79%以上にする。(R6 78%) 取組⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 80% 達成</p> <p>6 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、73%以上にする。(R6 72%) 取組⑤ 73% 達成</p> <p>7 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、94%以上にする。(R6 93%) 取組⑥ 95% 達成</p> <p>8 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、70%以上にする。(R6 69%) 取組⑦ 64% 未達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 「大阪市いじめ対策基本方針」の一層の徹底を図り、いじめ等の早期発見・解決、未然防止に努める。</p> <p>指標 全学年で学期に1回以上いじめアンケートを実施し、未解決事案0件にする。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 不登校生徒の状況把握のために定期的に情報交換を行う。</p> <p>指標 月に1回、不登校に関する校内全体での会議を行い、情報を共有する。またケースに応じて、関係諸機関と連携し対応する。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 遅刻生徒数を把握するために定期的に集計を行う。</p>	A

指標 月に1回、遅刻生徒数を集計し、学年集会等で報告する。	
取組内容④【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 各学年において4月当初にオリエンテーションを行い、学校の決まりを周知するとともに風紀チェックを行い、生徒の規範意識を醸成させる。	A
指標 各学年オリエンテーション、風紀チェックをそれぞれ1回以上実施し、生徒の規範意識を醸成させる。	
取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 行事毎で生徒同士の「いいところみつけ」を実施し、自分の良いところに気付かせる取組を行う。	A
指標 上記の取組を各学年、年間2回以上行い、懇談等で結果を伝える。	
取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 地域との防災訓練を通して、ジュニアリーダーとしての役割を自覚させる。	A
指標 防災訓練後のアンケートにおいてジュニアリーダーとしての役割を意識したと肯定的に答える3年生の割合を51%以上とする。	
取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】 各学年でキャリア学習に取り組む。	A
指標 キャリア教育に各学年年間1回以上取り組む。	
取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳教育を推進し、人としての生き方についての自覚を深めさせる。	A
指標 校外での各種道徳教育研修（文科省支援事業研究校・拠点校公開授業および研究協議、全市研究発表会、「道徳土曜学習会」、大阪市道徳教育推進委員会）に2回以上参加する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>年度目標の達成状況は次のとおりとなった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目で、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は88.1%であり、目標である88.8%を達成していない。 2 12月末時点で、不登校の状態にある生徒の在籍率は11.3%であり、前年度12月末時点の数値を下回っていることから、目標を達成した。 3 12月末時点で、前年度、不登校の状態にあった生徒において、今年度の改善の割合は54.0%であり、前年度の改善割合である64.2%を下回った。 4 年度末の校内調査において「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は93.4%であり、目標の97%を達成していない。 5 年度末の校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は80.4%であり、目標の79%以上を満たした。 6 年度末の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は73%であり、目標の73%以上を満たした。 7 年度末の校内調査の「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は95.4%であり、目標の94%以上を満たした。

8 年度末の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は64.1%であり、目標の70%以上を満たしていない。

各取り組み内容の結果は次のとおりである。

- ① 全学年、学期に1回のいじめアンケートを実施した。12月末時点で、認知したいじめ事案のうち、3か月の観察期間を満たした事例のうち解消の要件を満たしていない事例は0件である。
- ② スクリーニングシートを有効に活用しながら、月1回以上、職員会議・主任会等で不登校生徒の状況を把握を行い、情報交換を実施した。また個に応じて関係教職員によるケース会議を実施し、必要に応じて関係機関と適切に連携した。
- ③ 遅刻生徒数の減少を目的とし、週ごとの遅刻者数を学年集会等で報告することや、遅刻0週間の設定を学年の状況に応じて継続的に行った。
- ④ 全学年オリエンテーションを1回以上実施し、生徒の規範意識を高めることができた。
- ⑤ 全ての学年で適切に取り組んだ。
- ⑥ 年度末の校内調査の「地域との防災訓練を通して、ジュニアリーダーとしての役割を意識しましたか」の項目について、こうていてきに回答した生徒の割合は75.7%であり、目標の51%以上を満たした。
- ⑦ 全ての学年で適切に取り組んだ。
- ⑧ 第1～3回大阪市道徳教育推進委員会に2名の教員が参加、第80～84回道徳学習会に各回とも2～3名の教員が参加、9月5日の文科省支援事業（3B拠点校鶴見橋中学校）での公開授業・研究協議会に参加（指導助言・指導講評を担当）。10月8日全市研究発表会（難波中学校）の公開授業・研究協議会に参加することにより、自校での道徳授業の改善・充実を推進した。

次年度への改善点

- 1～4 次期「大阪市教育振興基本計画」を十分に理解したうえで適切な目標を設定する。
- 5～8 次期「大阪市教育振興基本計画」を十分に理解したうえで適切な目標を設定する。

大阪市立真住中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>1 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を45%以上にする。(R6 42%) 取組③</p> <p>2 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.05ポイント向上させる。 (令和6年度:2年国語0.91 数学0.86、1年国0.93 数0.96) 取組① ② ④</p> <p>3 令和7年度の中学校チャレンジテストの平均正答率(平均点)7割以下の生徒を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 (令和6年度:1年26% 2年36%) 取組①②④</p> <p>4 年度末の校内調査の「T.T.や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。(令和6年度:91%) 取組②</p> <p>5 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を51%以上にする。(R6 50.7%) 取組① ⑦ 45.3% 未達成</p> <p>6 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を58%以上にする。(R6 57%) 取組⑤ ⑥ 59% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 放課後に図書室など、自習ができる場所を開放し、学習習慣が定着していない生徒に対して、自主的な学習の場を提供する。</p> <p>指標 2学期期末テストの5教科の平均点を1学期期末テスト以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 国語、数学、理科、において、TTや習熟度別少人数授業を行い、授業できめ細やかな指導を行う。</p> <p>指標 令和7年度の校内調査の「国語、数学、理科のTTや習熟度別少人数の授業では、通常の授業と比べ、わからないところを教えてもらえたり、自分のペースに合わせた学習を行ったりすることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を、90%以上にする。</p>	B

<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 各授業において、生徒どうしが話し合う活動を單元ごとに取り入れる。</p> <p>指標 令和7年度の校内調査の「單元ごとに生徒同士が話し合う活動を取り入れている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 読解力の向上のために、2・3年生において漢字検定を受検する。</p> <p>指標 漢字検定を受検するための漢字学習を通して、漢字への興味関心が高まったと答える生徒の割合を65%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 本校生徒が比較的得意である球技種目を多めに取り入れることにより、運動やスポーツに対する意識を前向きにする。</p> <p>指標 球技種目を年間2つ以上行う。</p>	A
<p>取組内容⑥【基本的な方向5 健やかな体の育成】 各運動種目において、グループ活動を取り入れる。生徒同士の対話を重視し、お互いに教えあい、評価しあうことができる授業を展開する。</p> <p>指標 各運動種目1時間以上のグループ活動を行う。</p>	A
<p>取組内容⑦【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の増加】 4技能を向上させるためにパフォーマンステストを行う。</p> <p>指標 学期に1回以上パフォーマンステストを行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>年度目標の達成状況については次のとおりとなった。</p> <p>1 12月の校内調査において「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な回答をした生徒の割合は学校全体で35%(3年生42%、2年生30%、1年生35%)であり、指標を達成できなかった。肯定的な回答全体では86%と増加がみられる。(令和6年度:82%)</p> <p>2 中学生チャレンジテストにおける、国語および数学の平均点の対府比は3年生において国語が0.91→0.91、数学が0.86→0.91と数学で0.05ポイント以上増加させることができた。2年生においては結果を待っている状況である。</p> <p>3 令和7年度の中学校チャレンジテストの大阪府平均正答率(平均点)7割以下の生徒は3年生で32%であり、令和6年度の36%から4ポイント減少し、目標を達成することができた。2年生については結果を待っている状況である。</p> <p>4 12月の校内調査において「T.T.や習熟度別少人数授業やグループ別の授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は学校全体で83%(3年生87%、2年生83%、1年生82%)であり、指標を達成することができなかった。また、習熟度別少人数授業を受けていないという生徒が全学年で31%(88人)いる。</p> <p>5 令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合は45.3%以上であり、指標を達成することができなかった。</p> <p>6 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒は59.2%であり、目標の58%以上という年度目標を満たした。</p>

各取組み内容の結果は次の通りである。

- ① 各学年の1学期期末→2学期期末の平均点の推移は3年生：262→263、2年生：234→270、1年生：265→241であった。1年生は24点減少したが、2年生は36点増加することができた。
- ② 12月の校内調査において「国語、数学、理科のT.T.や習熟度別少人数の授業では、通常の授業を比べ、分からないところを教えてもらえたり、自分のペースに合わせた学習を行ったりすることができましたか」の項目について、肯定的に答えた生徒の割合は学校全体で80%(3年生76%、2年生82%、1年生85%)であり、指標を達成することができなかった。また、習熟度別少人数授業を受けていないという生徒が全学年で30%(86人)いる。
- ③ 12月の校内調査の「単元ごとに生徒同士が話し合う活動を取り入れている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は70%であり、目標を達成することができなかった。
- ④ 2月に行った国語科の調査によると、「漢字検定を受検するための漢字学習を通して漢字への興味関心が高まりましたか」という設問に対して肯定的に答えた生徒の割合は、2年生73%、3年生70%であった。
- ⑤ 球技種目を全学年において、複数種目を実施し、評価指標を満たした。
- ⑥ 評価指標通り、各運動種目で、グループ活動を設定し実践した。
- ⑦ 全学年でパフォーマンステストを学期に1回以上実施した。

次年度への改善点

- 1 教職員アンケート、生徒アンケートとも、昨年度と同程度の数値であった。もっとも肯定的な回答の数値を増やすには、話し合う活動を増やし、内容の精選をする必要がある。
- 2・3 令和7年度はチャレンジテストにおいて、昨年度より数値が向上した。少しずつではあるが基礎的な学力がついてきていると考えられるので、1つの学年だけでなく学校全体として数値が向上するように授業に取り組んでいく。
- 4 TTや習熟度別少人数の授業は、生徒に対してきめ細やかな対応が可能で、生徒の満足度も高い。しかし、「授業を受けていない」と回答する生徒も30%ほど存在するので、授業中の生徒への働きかけを増やす必要がある。
- 5 英語検定、漢字検定の受験級等については、年度当初に学年の意向をもとに決定する。各検定の合格率ではなく、各検定に向けての学習意欲に関する項目を指標とする改善案もある。
- 6 次期「大阪市教育振興基本計画」を十分に理解したうえで、適切な目標を設定する。
- 7 来年度も大阪市英語力調査があるので、4技能を高めるために学期に1回以上のパフォーマンステストを引き続き実施する。また日々の授業でも4技能が向上するように授業内容を工夫する。

大阪市立真住中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>1 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] (R7.12時点 3%) 取組① 未達成</p> <p>2 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1(基準2)を満たす教員の割合を前年度以上にする。 【令和6年度33.3%(76.7%)】取組④⑤ 38.71%(74.2%) 達成(未達成)</p> <p>3 学校閉庁日については、夏季休業期間中は2日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては1日以上設定する。(R6春0夏3冬3) 取組④⑤ 達成</p> <p>4 年度末の保護者アンケートの「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目について、肯定的に答える保護者の割合を、前年度より1ポイント増加させる。(R6 79%) 取組③ 92% 達成</p> <p>5 年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答える教職員の割合を、70%以上にする。(R5 67%) 取組⑥ 94% 達成</p> <p>6 令和7年度の校内調査、全国学力・学習状況調査の「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を、前年度より3ポイント減少させる。(令和6年度:校内52.0%) 取組②</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)】 学習者用端末を利用して、生徒の学習状況・気持ちの変化を把握する。</p> <p>指標 心の天気を原則毎日行う。デジタルドリルを朝学習として週3回活用する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】 読書に親しむ時間を設ける。</p> <p>指標 元気アップと連携し、土曜日に図書室を開放する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】 学校の様子を定期的に家庭や地域に発信する。</p> <p>指標 HPの更新を1日に1回以上する。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「ゆとりの日」をホワイトボードや月中行事などに記載することで見える化を図る。</p> <p>指標 年間で年次休暇の取得が10日以上教職員の割合を50%以上にする。</p>	A

取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 閉庁日を設定し、実行する。各自が毎月1回以上、時間外勤務時間の確認を行う。	A
指標 「働き方改革の取り組みにより、勤務時間縮減に対する意識が令和3年度と比較して高まりましたか」の項目において、肯定的な回答を70%以上にする。	
取組内容⑥【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 総合的読解力育成カリキュラムに関する校内研修を実施する。	B
指標 全教員が参加して行う校内研修会を年間2回実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
年度目標の達成状況は次のとおりであった。	
1	12月時点で、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が3日(134日中)である。月平均の学習者端末利用率は、学習端末の活用が8月：40% (授業4日間)、9月：62.5%、10月：29.4% (パソコン入れ替え期間のため)、11月：51.5%、12月：69.3%だった。10月を除けばすべてで前年度の数字を上回っており、1、2学期を合わせての平均は55.0%だった。前年度と比較した月平均の学習者端末利用率は約10%と上昇傾向である。また、生徒学校アンケートの「学校でプロジェクター、タブレットなどのICT機器を使った授業に取り組んでいると思いますか」のうち、「ほぼ毎日使っている」「週3日以上は～」の割合が91%で(1年生89%、2年生95%、3年生79%)、中間反省の時よりも18%上昇した。
2	11月実績で「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1は38.71%であり、昨年度を上回っている。次年度以降は、50%以上の達成に向けて働きかけが必要である。
3	学校閉庁日は、夏季休業で5日、冬季休業で1日設定したことで目標を達成した。
4	年度末の保護者アンケートにおける「学校は家庭・地域との連携を密にとっているか」の項目で、肯定的に答えた保護者は92.3%であり、目標である80%を満たした。
5	年度末の教職員アンケートの「校内研修が充実していたと思うか」の項目について、肯定的に答えた教職員の割合は94%であり、今年度の目標である70%を上回った。
6	当該の質問に「読書を全くしない」と回答する生徒の割合は全国学力・学習状況調査において、67%、校内調査においては52%(125人/240人)であり、前年度とほぼ変わらず、目標を達成することができなかった。
各取組み内容の結果は次のとおりである。	
①	2学期以降で心の天気の利用率を上げるために掲示用ポスターを作るなどの工夫を図った。また、集会のない日にデジタルドリルを朝学習として週3回実施した。デジタルドリルを取り組んだ生徒の中で優秀者を全校集会で表彰した。来年度も継続することを検討している。
②	元気アップと連携し、毎月2回、図書室を開館した。テスト前は参加する生徒も多く、学習環境の提供や読書習慣の定着に寄与した。
③	教職員の私物携帯端末で撮影した生徒の画像を掲載することを禁止する周知が7月に発出されたことにより、1日1回のHPの更新をすることができない中で、教職員の尽力で更新を重ねることができた。
④	12月31日時点で、年次休暇取得状況について、10日以上の子員の割合は、63%であり、すでに目標を達成している。
⑤	年度末の校内調査において、肯定的に回答した教職員の割合は88.2%であり、目標の71%以上を満たした。

⑥ 総合的読解力の授業が始まり2年目である。今年度はどの学年も35時間を確保できる見通しである。また、全教員が公開授業（相互授業参観）を年1回行った。

次年度への改善点

- 1 来年度は心の天気の利用率を上げ、全体的な端末利用率の底上げを実施したい。また各部署と連携して、ICTを活用した授業づくり、公開授業を開きたい。
- 2～4 次期「大阪市教育振興基本計画」を十分に理解した上で、適切な目標を設定したい。
- 5 総合的読解力に関することが指標として挙げられているが、来年度の目標は適切に設定していきたい。
- 6 平日放課後の図書館開放は来館数が少ない状態である。図書予算で授業で活用できる教材を購入するなど、図書室の活用を周知していく必要がある。

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立真住中学校 学校協議会

1 総括についての評価

今年度の自己評価（最終評価）結果は妥当である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

○令和7年度の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目について肯定的に回答する割合は80%で、年度目標の79%より1ポイント上回った。

○令和7年度の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は64%で、年度目標70%より6ポイント下回った。

○令和7年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は73%で、年度目標73%と同等であった。

① 達成目標の自己評価に関しては概ね妥当である。

② 不登校生徒に対する対応について、昨年度より改善率が向上しており評価できるが、依然として不登校生徒数が多い状態で推移しているため、引き続き対策を進めていただきたい。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合は35%で、年度目標の45%を10ポイント下回った。

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、3年生は国語で前年度同等の0.91、数学では0.91となり、前年度より0.05ポイント向上して年度目標の0.05ポイント向上させることは出来た。

(1・2年生チャレンジテストの結果は現時点で未公表)

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)は45.3%で、年度目標51%にすることは出来なかった。

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」の項目について最も肯定的に答える生徒の割合は59%で、年度目標の58%を1ポイント上回った。

① 授業などで話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする活動をさらに進めてほしい。

② 学校を準会場とした各種の「検定」について幅広い層で受験できるように事業の拡充と、自己肯定感の向上につながる取組みのさらなる推進をお願いしたい。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

○授業日における、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日が11月末時点で0日である11月に、ICTアシスタントによるICT研修(TeamsやForms)を行った。各授業において、学習者用端末の活用を促進するために、「ICT機器利用週間」を12月と1月に各1週間実施した。

○年度末の校内調査の「学校の授業時間以外に普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌を除く)」に対して肯定的に答えない生徒の割合は校内調査で58.8%となり、年度目標の前年度より3ポイント減少させるは達成出来なかった。(令和6年度56.3%)

○学校閉庁日は夏季休業で5日、冬季休業で1日設定し、目標であった夏季休業中に2日、夏季休業期間以外の休業期間に1日以上を達成した。

- ① 一人一台学習者用端末の活用状況の改善と運用についての統一した周知を行っていたきたい。
- ② 教職員の働き方改革について、比較的改善されている状況を理解した。
- ③ 学校司書や元気アップコーディネーターの協力もあり、放課後の図書館開館や土曜日の開館を行っているが、今後も本に親しむ環境整備と読書習慣の形成をめざしてほしい。

3 今後の学校園の運営についての意見

- ・アンケート調査結果を見ると、学校の状況が改善されてきていることが分かる。
- ・校内での問題行動も減少してきており、今後は不登校の改善に注力してほしい。
- ・図書館の活用と読書習慣の定着を進める取組みを行ってほしい。
- ・生徒がよりいっそう安心して登校できる学校づくりに期待する。